

概要版

平成 27 年 5 月 20 日
教育委員会

北九州市立小・中学校の現状と将来 ～学校規模適正化白書～

1 趣旨・目的

本書は、平成 52 年までの市立小・中学校の児童生徒数、学級数の推計を行い、教育環境の現状や将来の姿、あるいは、学校規模と教育活動等との相関性など、学校規模に関するデータを整理している。

本市の未来を担う子どもたちのより良い教育のあり方を市民の皆さんに考えていただくために公表するもの。

2 白書のポイント

- 平成 27 年から 52 年までの 25 年間で本市の児童生徒数は、約 3 割減少する。
- 本市の適正規模の基準は、教員が考える理想の学校規模とほぼ一致している。
- 学校統合を経験した児童生徒の約 7 割が統合して良かったと評価している。
- 10 年後には 1/3 の小学校で 6 学級以下となり、これらの学校ではすべての学年でクラス替えができなくなる。また、20 年後には、4 割を超える中学校が小規模校（8 学級以下）化する。
- 小・中学校における児童会・生徒会活動やクラブ・部活動については、概ね学校規模に比例して委員会等の設置数が増える傾向にある。
- 約 8 割の学校が築 30 年を超えている。
- 本市の 1 学校あたりの児童生徒数、学級数ともに、指定都市の中では極めて少なくなっている。

3 人口推計

(1) 総人口

	平成 27 年 (現在)	平成 37 年 (10 年後)	平成 47 年 (20 年後)	平成 52 年 (25 年後)
全国	12,660 万人 (100)	12,066 万人 (95.3)	11,212 万人 (88.6)	10,728 万人 (84.7)
北九州市	961,748 人 (100)	903,262 人 (93.9)	826,141 人 (85.9)	784,162 人 (81.5)

() は平成 27 年を 100 としたときの指数

(2) 年少人口（15 歳未満の人口）

	平成 27 年	平成 37 年	平成 47 年	平成 52 年
全 国	1,583 万人 (100)	1,324 万人 (83.7)	1,129 万人 (71.3)	1,073 万人 (67.8)
北九州市	119,391 人 (100)	99,025 人 (82.9)	83,630 人 (70.0)	79,211 人 (66.3)

() は平成 27 年を 100 としたときの指数

4 北九州市の児童生徒数、学級数等の推計

(1) 児童生徒数

	平成 27 年	平成 37 年	平成 47 年	平成 52 年
児童数 (小学校)	48,499 人 (100)	41,327 人 (85.2)	35,322 人 (72.8)	33,926 人 (70.0)
生徒数 (中学校)	23,937 人 (100)	21,226 人 (88.7)	16,591 人 (69.3)	15,922 人 (66.5)

() は平成 27 年を 100 としたときの指数

(2) 学級数

	平成 27 年	平成 37 年	平成 47 年	平成 52 年
小学校	1,680 学級 (100)	1,473 学級 (87.7)	1,324 学級 (78.8)	1,299 学級 (77.3)
中学校	719 学級 (100)	650 学級 (90.4)	520 学級 (72.3)	509 学級 (71.8)

() は平成 27 年を 100 としたときの指数

(3) 学校規模

ア. 小学校

	平成 27 年	平成 37 年	平成 47 年	平成 52 年
小規模校 (11 学級以下)	49 校 (37.4%)	57 校 (43.2%)	67 校 (50.8%)	67 校 (50.8%)
うち 6 学級以下	23 校 (17.6%)	45 校 (34.1%)	57 校 (43.2%)	58 校 (43.9%)
適正規模校 (12-24 学級)	80 校 (61.1%)	72 校 (54.5%)	65 校 (49.2%)	65 校 (49.2%)
大規模校 (25 学級以上)	2 校 (1.5%)	3 校 (2.3%)	0 校 (-)	0 校 (-)

() は小学校全体に占める比率

イ. 中学校

	平成 27 年	平成 37 年	平成 47 年	平成 52 年
小規模校 (8 学級以下)	14 校 (22.6%)	18 校 (29.0%)	28 校 (45.2%)	28 校 (45.2%)
適正規模校 (9-24 学級)	47 校 (75.8%)	43 校 (69.4%)	34 校 (54.8%)	34 校 (54.8%)
大規模校 (25 学級以上)	1 校 (1.6%)	1 校 (1.6%)	0 校 (-)	0 校 (-)

() は中学校全体に占める比率

5 留意事項

今回の各小中学校別の推計にあつては、

- ① 出生と死亡だけの要因で人口が変化すると仮定した「封鎖人口を仮定した男女・年齢（5 歳）階級別の推計結果」
- ② 小・中学校の通学区域ごとの過去 4 年間における転居や私学への流出などの社会移動といった要因を反映して算出している。